



山名一族会報

全国山名氏一族会
〒667-1311 兵庫県美方郡香
美町村岡区村岡2365 法雲寺内
電話 0796-198-1115
FAX 0796-198-1116

役員会開催

H25年12月17日京都市花園・「阿じろ本店」にて役員会(常任理事会)を開催しH25年総会の決算及び、今後の活動内容など協議致しました。

総会から2ヶ月が経過し、総会決算や総会で積み残された活動計画などを関西在住の役員様(山名年浩会長・宮田副会長・山名義範理事長・山名靖英常任理事)にご参集願ひ協議致しました。

会場は妙心寺前の精進料理「阿じろ」。数日続いた冬型が緩んだ後の薄曇りの日。時折日差しが差し込む京町屋の一室で種々の相談をさせて頂きました。

尚、H26年総会等の具体的内容は春に計画します理事会で協議決定致



会場の阿じろと出席役員各位



したいと思えます。その際は理事各位のご出席よろしくお願い致します。

H25年総会決算

第一日目(10月12日)の山名会行事・二日目(13日)の両氏慰霊行事通しての決算となります。一日目は一般聴講者含んで55名参加、二日目は登城スタッフ含んで47名の皆さんがご参加下さいました。何とか若干の赤字で終えることが出来ました。(決算書・ご協賛報告左図)

総会の反省点・課題

- 歩く距離が多くご不便を掛けた。
- ↓ 車椅子等の準備も考慮？

- 記録写真・記念写真を残す余裕が無かった↓運営スタッフの不足。
- 二日目の行事が二つに分かれた(法要・登城)のは良くなかった。
- 竹田城見学的时间が少なすぎた。
- 修学旅行的な行程では無く、一カ所にじっくり時間を取る方が良い?
- 年次総会で計画をゆっくり話し合う余裕が無かった。
- ホテルが余り良くなかった。

今後の活動について

- 赤松氏との慰霊行事について当面は毎年定期的には行かないまでも、但馬での行事開催のうちに継続する。
- 竹田城の混雑が一段落したら、山上での慰霊祭も気軽に実施出来るのでは？

決算情報等

ささやかな会計につき掲載略

細川氏との交流について

■ 実際には応仁の乱の前も後も婚姻関係など密接な繋がりを持っていた山名と細川ではあるが、世間的には「応仁の乱で対立したまま」の観が強い。

■ 世間的には「意外な両者の交流」を実現させ、再興3年目の「山名会」の存在を衆知して貰う。

■ 次期総会に細川氏代表の方にお出で願って、講演や懇親会臨席を願う方向で準備調整。

■ 山名会の意向は先方に打診済み↓後は山名会の企画内容次第。

会誌「山名第6号」の発行

■ 「山名第5号」は200部発行し、残数は40程度。↓次回ではもう少し部数を増やすべきか?

■ 会員各位の自由な見識発表の場+歴史史的な価値も付与する。

■ 歴史史的料の面では、もう手に入らない「山名家譜」何部かに分けて解説付きで連載が出来ないか?

↓ 東大史料編纂所との関係で少し慎重に検討

H26年総会開催について

■ 前記、「細川氏との交流」を軸に原案作成。H26春の理事会にて具体的内容を検討。

■ 実施予定はH26年秋(10月後半?)、会場は京都を中心に

■ 第一日目: 年次総会・交流事業(講演・懇親)

■ 第二日目: 清和源氏ゆかりの地の散策

H26春理事会開催について

- H26年春に開催予定。
- 会場は京都駅周辺、H26年総会の下見を兼ねて実施できれば。
- H26年総会についての具体的内容検討。

会員数50名到達

前年度の目標でありました会員数50名確保。遅ればせながらH25年総会終了後の11月に入りようやく目標達成です。縁あって入会された皆様に山名会を楽しんで頂けるよう、今後も取り組んで行きたいと思えます。

会員数内訳			
府県	会員数	府県	会員数
東京都	6	埼玉県	1
神奈川	2	群馬県	1
千葉県	1	愛知県	1
茨城県	1	大阪府	5
栃木県	1	京都府	2
和歌山	4	広島県	2
兵庫県	15	石川県	1
鳥取県	4	福島県	1
島根県	1	岡山県	1
		合計	50

会員章追加作成

会員数が50名となれば会員章が足りなくなってきました。新たに50個を追加作成致します。

会章追加分をお申し込みの方にも、準備でき次第発送致します。

もう少しお待ち下さい。



The 山名図録配布

H25年総会で講師を願った鳥取市歴史博物館の石井宏伸氏がH24に企画実施された同博物館「The山名―山陰守護大名の栄枯盛衰―」の図録が再版されました。山名関係の貴重資料が数多く掲載され、山名氏の歴史についても判りやすく解説されています。

会員各位には1冊お手元にお配りします。



光臺寺由緒看板

草山常任理事が進められていました高崎市・光臺寺の由緒看板が完成しました。

高崎市山名八幡宮の南東500メートル程の所に光臺寺があります。

ここは初代・山名義範公から八代・時氏が公がまでが過ごされた山名館の跡地であると言われます。

去る5月高崎市を訪ねられた草山常任理事が、現地を案内下さった里見一族交流会の田中会長からのお勧めと、光臺寺ご住職や総代さんの賛意を得て、光臺寺に「山名館由緒看板」を設置する運びとなりました。

草山常任理事におかれましては夏から秋にかけて、打合せに、許可申請にと10回近く神奈川と高崎を往復され、はれて11月28日には山名義英副総裁ご来駕を仰いでの由緒看板除幕式を迎えられました。

この由緒看板設置を縁として山名

の地元・高崎の皆さんとの繋がりを深める事が出来ればと期待致します。

今回、山名会としましては看板文面を検討させて頂いただけで、後は全てを草山常任理事にお任せで、草山常任理事のご尽力には深謝申し上げます。



完成した看板を前に、除幕式には10名が集った。左記は光臺寺由緒看板の文面。

山名館跡

清和源氏、新田義重の子義範は、この地山名郷を父より本貫地として与えられ、家号を山名義範と改め、此処に居を構えた。現在の此処光臺寺境内は山名館であった。

初め義範は頼朝の御家人として平家追討の搦手大将軍源義経に従い、一の谷の合戦に奮戦し、その武勳により、清和源氏受領六人の筆頭として伊豆守に任命されている。次の義節より重国・重村・義長・義俊・政氏・時氏と八代にわたり居住していたが、時氏の子、後醍醐天皇による、鎌倉幕府倒幕の勅命を受けた足利尊氏に従い京都六波羅攻撃の為、この地より西国へ向かった。その後、建武の親政と南北朝の動乱に

更なる発展 飛躍の年に

平成25年総会は、第一日目・二日目共に約50名のご参加を得て開催。また会員数も前期の目標50名にようやく達することが出来、安堵しています。しかし、会統の正念場はこれからです。会役員や事務局だけの力だけでは動く物では有りません。会員の皆さんの後ろ盾有って初めて活動を重ね発展するものと考えております。

平成26年は更なる飛躍が出来ますよう今まで以上のご協力ご参加是非ともよろしくお願い致します。(事務局)



山名八幡宮奉納神馬記念品 (平成元年)

於いて時氏の活躍目覚しく、五ヶ国の守護大名となった。四男氏清の時、十二ヶ国の大守護となり、日本全国の六分の一が領国であったので六分の一と呼ばれるにいたった。その後、明徳の乱に於いて時氏の孫、時熙が活躍して室町幕府の重鎮となった。応仁の乱では、時熙の嫡子・山名宗全が西軍の総大将として天下に、その名を轟かせ、歴史を動した。かくて山名氏は日本全国から啓仰されたのである。

やがて時代は戦国時代へと移り、歴代山名氏もこの戦乱を生きぬいて行くのであるが、山名氏宗家として、再び故地に戻る事なく現在に至っている。